現代文化人類学会

第 22 回総会・シンポジウム プログラム

日時：2021 年 1 月 9 日（土） 12：00～
会場：オンライン会場

開場　11：45
開会の辞　12：00
研究発表　12：05～12：35
ゴロウィナ・クセーニヤ　（東洋大学）
ムヒナ・ヴァルヴァラ　（上智大学）
「犠牲性」のナラティブ化：在日ロシア語圏女性移住者による仕事の経験を事例に
休憩　12：35～13：30
総会　13：30～14：00
休憩　14：00～14：20

シンポジウム　14：20～17：20

Writing (Against) Nature：「転回」以後の民族誌

本企画は、現代の人類学における「自然」の問い直し（＝Nature の主題）と、「民族誌をいかに書くか」という方法論的な問題系（＝Writing の主題）を結び付けることで、人類学が置かれている現代的状況を探索しようとするものである。近年の人類学においては、ラトゥール、デスコラら多くの論者が、近代的な、客体化された「自然」概念の無効を宣言してきた。その一方で、「人新世」をめぐる議論に見られるように、人間と環境の関わりが避けて通れない主題として浮上している。あえて単純化するなら、今日の人類学における中心的な主題は、「文化を書く」ことから「自然を書く」ことに移行したと言えるだろう。今日の人類学は、これまで「自然」と呼ばれてきた領域をどのようにとらえ直し、それをどのような民族誌として「書く」ことができるか。本企画では、世界各地の民族誌的事例に即してこのような問いに取り組む。

オーガナイザ
里見　龍樹　（早稲田大学）
パネリスト
橋爪　太作　（早稲田大学）
フタバガキが倒れるとき：現代メラネシアの森林伐採から考える人新世時代の自然と政治
古川　不可知　（九州大学）
ヒマラヤを歩くことと生成変化する「自然」の境界：ティム・インゴルドの環境論を手掛かりに
近藤　宏　（早稲田大学）
種による記述、あるいは、複製される身体表面：パナマ東部先住民エンベラによる不可視の存在の記述
コメンテーター
箭内　匡　（東京大学）

※今回の総会・シンポジウムでは懇親会を行いません。

お問い合わせ先　〒162-8644 新宿区戸山 1-24-1
早稲田大学文学学術院内　現代文化人類学会事務局
E-mail：　vita-jimu@list.waseda.jp
Website：　http://www.waseda.jp/assoc-wsca/
Facebook：　https://www.facebook.com/wsca.vita
Twitter：　https://twitter.com/wsca_vita